す。

しかし申すまでもないことですが，大学は外部の権力や勢力の介入を許してはなりません。大学は自治を守り，多様な独創的な研究としっかりした教育を遂行することを通して社会に寄与することを目指さなければならないと思います。そのためには自由と余暇が不可欠であります。学者のことをスカラーと申しますけれども，それは余暇を持つ人という意味です。もちろん私たちは優雅に暇を楽しんで怠けたいなどとは思っておりません。

それはともかく学園の自由は社会における言論出版の自由，市民的自由によってしか支えられないということは申すまでもないことであります。他方，あまりにも今は多忙で，自由な研究がどこまでできているのか，自戒しなければならないことも事実であります。COE プログラムがどのような成果を上げるのかということも社会は注目をしているように思います。

大学で仕事をしております私には，河上肇はこのようなことを考えさせる思想家でありました。ここにお集まりくださいました皆様にとって河上肇はどのようなことを考えさせる思想家でしょうか。今はもちろん皆様のご意見を伺うことは叶いませんけれども，最後までこの記念すべき講演，中野先生と住谷先生のお話をご堪能いただきますようにお願いいたします。簡単ですが西村研究科長に代わってのご挨拶といたします。

## 河上肇記念会山口懇話会から

加藤　碩（ひろし）

ご紹介いただきました河上肇記念会山口懇話会（略称山口河上会）の代表代行の加藤碩（ひろし）と申します。代行となっておりますのは，実は初代の代表が立命館大学の教壇に立っておられました細迫朝夫（ほそざかともお）先生でした。先生が郷里の山口県にお帰りになって，山口懇話会がスタートしたんですけれども，いまはお亡くなりになりました。その後の代表の方もつい1週間ちょっと前にお亡くなりに

なって，その後ということで私が代表を，要請はされているんですが固辞している際中でありますので，代行ということにしていただきました。昨日山口県から京都に参りまして，今朝大変晴れておりましたので東山の法然院の河上先生と奥さんの秀さんのお墓にお参りをして，このシンポジウムと講演に参加をさせていただきました。

皆さんもご存じの通り，河上肇は現在岩国市となっておりますが山口県玖珂郡錦見村で1879年（明治12年）に生まれ，旧制の山口高等学校を卒業するまで19歳か20歳の時まで山口県で生活をしました。そういうこともあって私たちは河上肇先生の郷里ということで記念会を作ってそれなりの活動を進めているところです。メッセージにも書きましたけれども，私たちが非常に印象深く学ばせてもらっている著作に「貧乏物語」があります。いかにして貧乏を根治すべきか，克服すべきかというテーマは，依然として今も解決されていない大きなテーマだと私たちは考えています。ぜひ河上先生のご努力に学びながら，私たちも跡を継いで頑張っていきたいという気持ちで，山口県でも頑張っていることをご報告したいと思います。

やがて春になりますが，錦帯橋という岩国市の有名な橋がつい先だって新しくたちかわりましたが，その錦帯橋の橋のたもとに河上先生の歌碑を河上会が建立しました。今日法然院に行きましたら，お墓の隣にも同じ歌がありました。「たどりつき　ふりかえりみれば山川を　こえてはこえて　きつるものかな」という歌が彫られています。ぜひ岩国にもお出でいただいて，河上肇先生を偲んでいただきたいということを申し上げましてご挨拶に代えたいと思います。本日は大変ありがとうございました。

## 河上肇記念会から

中野一新

ご紹介をいただきました中野でございます。河上肇記念会の世話人代表を務